

保存版

# 防災 ハンドブック

今やろう  
平成28年熊本地震  
令和2年7月豪雨  
から学んだこと



熊本県

協力



損保ジャパン

SOMPO 保険の先へ、挑む。



© JAPAN-PA

## 公的機関の連絡先

連絡先	TEL	連絡先	TEL
消防署(消防・救急車)		電力会社	
警察署		ガス会社	
市町村		水道局	
		病院	

## 災害用伝言ダイヤル (プッシュ式電話機用)

震度6弱以上の地震などの発生により電話がつながりにくくなったときに利用できる伝言ダイヤルです。音声ガイダンスに従い、落ち着いて利用しましょう。

### 伝言の録音

- ① 「171」にダイヤル
- ② 「1」を押す
- ③ 自宅の電話番号を  
市外局番からダイヤル
- ④ 「1」[#]を押す
- ⑤ 録音する(30秒以内)
- ⑥ 「9」[#]を押す

### 伝言の再生

- ① 「171」にダイヤル
- ② 「2」を押す
- ③ 相手先の電話番号を  
市外局番からダイヤル
- ④ 「1」[#]を押す
- ⑤ 再生する

## 災害用伝言板 (携帯電話用)

震度6弱以上の地震などの発生により電話がつながりにくくなったときに携帯電話から利用できる伝言板もあります。

## その他の連絡方法

### 公衆電話

公衆電話は災害時に一般回線より優先的に回線が確保される「災害時優先電話」に指定されています。位置を確認しておきましょう。

### インターネット

パソコン、携帯のメール、ツイッター、ミクシィ、フェイスブック、スカイプなどのインターネットを利用した連絡手段は比較的有効と言われています。

損保ジャパンは 熊本県の防災力向上 を応援します!

熊本県と損保ジャパンは「地域防災力向上に関する包括連携協定」を締結し、県民の皆さまに対して、防災意識の普及・啓発を行ってまいります。

発行者：熊本県 所属：危機管理防災課 発行年度：令和2年度  
本誌は損保保険ジャパン様のご協力により増刷いたしました。



© 2010 熊本県

# 風水害から身を守る

対策の基本は  
情報収集と  
早めの避難



熊本県では、繰り返し台風や豪雨による被害が発生しています。台風や豪雨は、地震と違い、事前に予測が可能であるため、情報を収集し、早めの避難が重要です。

## こうして起こる!風水害発生メカニズム

### 集中豪雨が発生しやすいとき!

- 前線が停滞しているとき  
(特に、梅雨期の終わりごろ)
- 台風が近づいているときや台風が上陸したとき
- 大気の状態が不安定で、次々と雷雲が発生しているとき  
(特に、陽射しの強い夏ごろ)



### 集中豪雨が起るとどうなるのか?

- 川の水が増え、氾濫することがあります。
- 床上、床下浸水が発生することがあります。
- 道路が冠水することがあります。
- 排水溝や下水管で水が溢れ、地下のスペースなどに水が流れ込むことがあります。

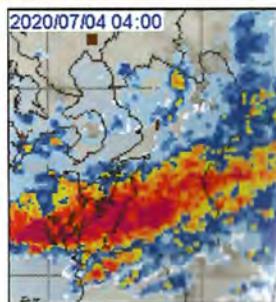
## 風水害発生の事例

【熊本広域大水害】  
平成24年7月12日



【令和2年7月豪雨】  
令和2年7月4日

気象レーダー画像  
(令和2年7月4日)



### 線状降水帯の発生

7月3日～4日に球磨川流域に記録的な大雨をもたらした線状降水帯は、長さが約280kmで13時間停滞するなど、2009年以降に九州で発生した線状降水帯のうち、最も規模が大きく、持続時間も最長を記録。

出典：気象研究所ホームページ  
[https://www.mri-jma.go.jp/Topics/R02/O21224-2/press\\_021224-2.html](https://www.mri-jma.go.jp/Topics/R02/O21224-2/press_021224-2.html)

## 日頃の備え

### 防災情報の収集

- 気象台が発表する土砂災害警戒情報や氾濫危険情報等。
- 市町村が発令する避難情報等。  
防災情報の収集→P23参照



雨がひどくなりそうなときは…

### 地域の危険箇所や避難経路の確認

- 市町村が作成したハザードマップ(防災マップ)などで、お住まいの地域の危険箇所(過去に浸水した場所など)や避難経路をあらかじめ把握、確認しておきましょう。



### 早めの予防的避難を!

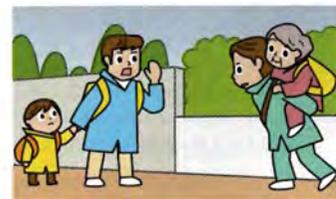
- 夜間や大雨時は、避難そのものが危険になります。大雨が予想される場合は、**本格的に雨が降り出す前の、明るい時間帯での予防的避難**を心がけましょう!
- 大雨や台風に合わせて、5段階の警戒レベル(次ページ)に応じた避難開始のタイミングや避難行動をまとめるマイタイムラインを作成しておきましょう。

### マイタイムライン

大雨や台風などの自然災害から自分の身を守るために、あらかじめ避難行動やその準備をまとめておく一人ひとりの防災行動計画。

### 避難するときの注意点

- 1 **安全で動きやすい服装**  
※長靴は水が溜まると動きにくくなるので厳禁!
- 2 **足元に注意**  
※歩行可能な水深は、一般的に大人男性70cm、女性50cmとされています。流れが速い場合は非常に危険です。  
※マンホール、側溝などに注意しましょう。
- 3 **隣近所で声をかけ合って避難**
- 4 **病人や高齢者は背負って避難**
- 5 **子供は大人が手をつないだり、ライフジャケットなどをつける**



### 避難が危険な場合は

- 建物の2階など、できるだけ安全なところに避難しましょう。

危険!

台風時など、雨風が強い中での以下の行動は大変危険です。絶対にやめましょう!

- 田畑の様子を見に行く
- 屋根の上って作業する
- 川や海の様子を見に行く



## 5段階の警戒レベルを活用しましょう

- 警戒レベルとは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために、市町村が発令する避難情報等や気象庁等が発表する防災気象情報等の防災情報を、5段階に分けたものです。警戒レベルに応じた行動を、普段から確認しておくことが大切です。
- また、お住まいの市町村が配布している防災マップ（ハザードマップ）を活用して、自宅の災害リスクを確認し、避難場所・経路を決めておきましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	防災気象情報 (警戒レベル相当)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保 <sup>※1</sup> (市町村発令)	大雨特別警報 氾濫発生情報 [暴風特別警報 <sup>※2</sup> ]
～警戒レベル4までに必ず避難～				
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示 (市町村発令)	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮警報・特別警報
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・避難に時間のかかる要配慮者（高齢者・障がい者・乳幼児等）とその支援者は避難 ・高齢者等以外の人も危険を感じたら自主的に避難	高齢者等避難 (市町村発令)	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報 高潮注意報 [暴風警報 <sup>※2</sup> ]
2	気象状況 悪化	自分の避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報 (気象庁発表)	氾濫注意情報 [強風注意報 <sup>※2</sup> ]
1	今後気象 状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 <警報級の可能性> (気象庁発表)	

(令和3年3月、内閣府から国会に提出された「災害対策基本法等の一部を改正する法律案」等に基づき、熊本県が作成)

- ※1 レベル5は市町村が災害の状況を確実に把握できるわけではないことから、必ず発令されるものではありません。
- ※2 暴風特別警報、暴風警報、強風注意報については、参考として記載しています。

### <5段階の警戒レベルと避難行動の関係>

市町村から警戒レベル4「避難指示」や警戒レベル3「高齢者等避難」が発令された場合は、「住民がとるべき行動」に基づき、必要な避難行動をとりましょう。

また、市町村から「避難指示」や「高齢者等避難」が発令されていなくても、発表されている防災気象情報がどの警戒レベルに相当するのか確認し、自ら避難の判断をしましょう。また、明るいうちからの予防的避難を心がけましょう。

# 土砂災害から身を守る

命に関わる災害  
大雨情報に注意し  
早めの避難を!



土砂災害は命に関わる重大な被害をもたらします。梅雨や台風などで短時間にたくさんの雨が降るときには特に注意が必要です。早めに避難しましょう。

## こうして起こる! 土砂災害発生メカニズム

- 土砂災害は、大雨や融雪、地震、火山噴火などによって発生します。
- 梅雨や台風などの雨が**多く降る時期**は、特に注意が必要です。
- 1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降水量になったら十分な注意が必要です。

**CAUTION!** 注意! がけ下や山すそに住んでいる方は特に注意を!!

### 土砂災害の種類

#### 土石流



長雨や集中豪雨によって、石や土砂が水と一緒に一気の下流へ流れる現象です。

- 山鳴りがする。
- 急に川の流が濁り、流木が混ざっている。
- 土臭いにおいがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

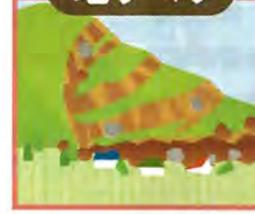
#### がけ崩れ



長雨や集中豪雨によって、斜面が急に崩れ落ちる現象です。

- がけから水が湧き出してくる。
- がけに亀裂が入る。
- がけから小石がバラバラ落ちてくる。
- がけから木の根が切れる等の異様な音がする。
- 樹木が傾く。

#### 地すべり



地下水などが粘土のような滑りやすい地面にしみ込んで、その影響で地面が動き出す現象です。

- 沢や井戸の水が濁る。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水が湧き出す。
- 家や擁壁に亀裂が入る。
- 樹木や擁壁、電柱が傾く。



## 土砂災害発生の事例

### 熊本県でも、多くの土砂災害が発生しています

発生年	災害名	概要
平成15年	平成15年7月 県南集中豪雨	水俣市深川新屋敷地区や宝川内集地区などで土石流災害が発生(死者19名)
平成24年	熊本広域大水害	阿蘇地方を中心に河川の氾濫や土砂災害が発生(死者・行方不明者25名)※
令和2年	令和2年7月豪雨	県南地域を中心に球磨川の氾濫や土砂災害が発生(死者・行方不明者67名)※

※土砂災害以外による死者・行方不明者を含む



阿蘇市一の宮町手野地区  
平成24年7月12日

- 深夜の豪雨や雷により、避難行動をとることが難しい状況でした。雨が強くなる前に早めに避難しましょう。

## 日頃の備えと早めの避難

- 日頃から、山(斜面)から離れた部屋や2階で過ごすことが重要です。
- 市町村が作成しているハザードマップ(防災マップ)を確認し、自宅が土砂災害警戒区域等にあるかどうかを確認しましょう。
- 避難場所や避難経路を確認しましょう。
- 大雨や台風に向けて、5段階の警戒レベル(5ページ)に応じた避難開始のタイミングや避難行動をまとめるマイタイムラインを作成しておきましょう。
- 気象情報をテレビ・ラジオ・インターネット等で収集しましょう。
- 大雨警報(土砂災害)の危険度分布をインターネットで確認しましょう。
- 明るい時間帯のうちに、避難所や親類宅など安全な場所への早めの予防的避難を行いましょう。



## 迷わず避難…

大雨警報や土砂災害警戒情報が発表されたら、市町村からの避難情報に関わらず、避難をしましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報(市町村発令)	防災気象情報(警戒レベル相当)
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示	土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難	大雨警報

深夜の集中豪雨などにより、外に出て避難ができない緊急時には

- 屋内の2階以上の安全を確保できる高さへの「垂直避難」や山(斜面)からできるだけ離れた部屋へ避難しましょう。



## 土砂災害の警戒区域を確認

- 「土砂災害情報マップ」では、大雨などにより土砂災害が発生した場合に、生命または身体に危害が生じるおそれがある区域(通称:レッドゾーン、イエローゾーン)を公表しています。
- 「防災情報くまもと」(24ページ)からも確認できます。



熊本県 土砂災害情報マップ

